

## 【OSPF】

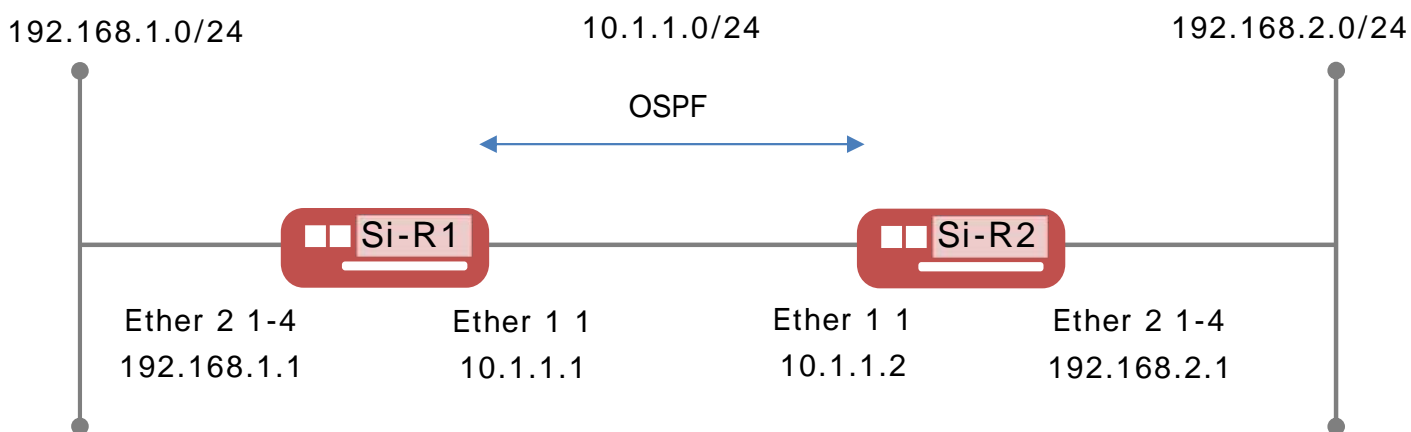
OSPF機能を利用した設定例です。

### [対象機種と版数]

Si-R Gシリーズ V20.50以降

### [設定内容]

- ・ Si-R1のEther 1 1側に10.1.1.1/24、Si-R2のEther 1 1側に10.1.1.2/24を割り当てます。
- ・ Si-R1のEther 2 1-4側に192.168.1.1/24、Si-R2のEther 2 1-4側に192.168.2.1/24を割り当てます。
- ・ Si-R1のEther 1 1側、Si-R2のEther 1 1側でOSPF機能を設定します。
- ・ OSPFにインタフェース経路の再配布を行います。



## [設定]

### Si-R1設定

```
ether 1 1 vlan untag 1
ether 2 1-4 vlan untag 2
lan 0 ip address 10.1.1.1/24 3
lan 0 ip ospf use on 0
lan 0 vlan 1
lan 1 ip address 192.168.1.1/24 3
lan 1 vlan 2
routemanage ip redistrib ospf connected on 20 type2
ospf ip area id 0.0.0.0
syslog facility 23
time zone 0900
consoleinfo autologout 8h
telnetinfo autologout 5m
terminal charset SJIS
```

### Si-R2設定

```
ether 1 1 vlan untag 1
ether 2 1-4 vlan untag 2
lan 0 ip address 10.1.1.2/24 3
lan 0 ip ospf use on 0
lan 0 vlan 1
lan 1 ip address 192.168.2.1/24 3
lan 1 vlan 2
routemanage ip redistrib ospf connected on 20 type2
ospf ip area id 0.0.0.0
syslog facility 23
time zone 0900
consoleinfo autologout 8h
telnetinfo autologout 5m
terminal charset SJIS
```

## [解説]

### Si-R1設定解説

```
ether 1 1 vlan untag 1
```

Ether 1 1インタフェースにVLAN1を割り当てます。

```
ether 2 1-4 vlan untag 2
```

Ether 2 1-4インタフェースにVLAN2を割り当てます。

```
lan 0 ip address 10.1.1.1/24 3
```

LAN0側にIPアドレスを設定します。

- ・ 10.1.1.1/24 : lan0 IPアドレス/マスクです。
- ・ 3 : ブロードキャストアドレスのタイプです。通常は3で構いません。

```
lan 0 ip ospf use on 0
```

OSPF機能を使用します。

- ・ 0 : インタフェースが属するエリアの定義番号です。

```
lan 0 vlan 1
```

VLAN ID とlan 定義番号の関連付けを行います。

```
lan 1 ip address 192.168.1.1/24 3
```

LAN1側にIPアドレスを設定します。

- ・ 192.168.1.1/24 : lan1 IPアドレス/マスクです。
- ・ 3 : ブロードキャストアドレスのタイプです。通常は3で構いません。

```
lan 1 vlan 2
```

VLAN ID とlan 定義番号の関連付けを行います。

```
routemanage ip redistrib ospf connected on 20 type2
```

OSPFにインタフェース経路情報を再配布する設定をします。

- ・ 20 : メトリック値です。
- ・ type2 : 外部経路のメトリックタイプです。

```
ospf ip area id 0.0.0.0
```

エリア ID を設定します。

- ・ 0.0.0.0 : エリア IDです。

```
syslog facility 23
```

システムログ情報の出力対象ファシリティの設定をします。通常はこの値で構いません。

time zone 0900

タイムゾーンを設定します。通常はこのままで構いません。

consoleinfo autologout 8h

telnetinfo autologout 5m

シリアルコンソール、TELNETコネクションの入出力がない場合のコネクション切断時間を設定します。

terminal charset SJIS

ターミナルで使用する漢字コードをShift JISコードに設定します。

## Si-R2設定解説

```
ether 1 1 vlan untag 1
```

Ether 1 1インタフェースにVLAN1を割り当てます。

```
ether 2 1-4 vlan untag 2
```

Ether 2 1-4インタフェースにVLAN2を割り当てます。

```
lan 0 ip address 10.1.1.2/24 3
```

LAN0側にIPアドレスを設定します。

- ・ 10.1.1.2/24 : lan0 IPアドレス/マスクです。
- ・ 3 : ブロードキャストアドレスのタイプです。通常は3で構いません。

```
lan 0 ip ospf use on 0
```

OSPF機能を使用します。

- ・ 0 : インタフェースが属するエリアの定義番号です。

```
lan 0 vlan 1
```

VLAN ID とlan 定義番号の関連付けを行います。

```
lan 1 ip address 192.168.2.1/24 3
```

LAN1側にIPアドレスを設定します。

- ・ 192.168.2.1/24 : lan1 IPアドレス/マスクです。
- ・ 3 : ブロードキャストアドレスのタイプです。通常は3で構いません。

```
lan 1 vlan 2
```

VLAN ID とlan 定義番号の関連付けを行います。

```
routemanage ip redistrib ospf connected on 20 type2
```

OSPFにインタフェース経路情報を再配布する設定をします。

- ・ 20 : メトリック値です。
- ・ type2 : 外部経路のメトリックタイプです。

```
ospf ip area id 0.0.0.0
```

エリア ID を設定します。

- ・ 0.0.0.0 : エリア IDです。

```
syslog facility 23
```

システムログ情報の出力対象ファシリティの設定をします。通常はこの値で構いません。

time zone 0900

タイムゾーンを設定します。通常はこのままで構いません。

consoleinfo autologout 8h

telnetinfo autologout 5m

シリアルコンソール、TELNETコネクションの入出力がない場合のコネクション切断時間を設定します。

terminal charset SJIS

ターミナルで使用する漢字コードをShift JISコードに設定します。